

# コラム 増殖性腸炎について

令和元年10月発行 第7号

増殖性腸炎は、「ローソニア・イントラセルラリス」という細菌が起こす小腸の病気です。

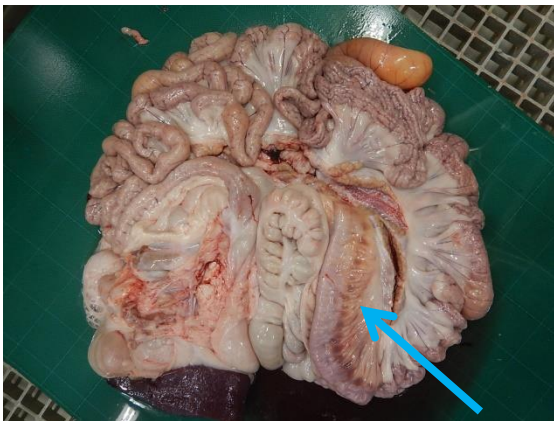
## 症状

6～24週齢の肥育豚に発生するが、臨床症状は分かりにくく、食欲不振、発育不良、軽度の下痢がみられる程度で、蔓延化した場合の発見は難しい。

## 病変

臨床症状が乏しい増殖性腸炎の症例はと畜検査で発見される場合が多い。肉眼所見として、回腸遠位部のホース状の腫大と腸間膜の水腫がみられる。病変が認められる腸壁は著しく肥厚し、偽膜の形成がある。

回腸遠位部の腫大  
腸間膜の水腫



腸粘膜の肥厚と充血



## 予防

発症豚の糞便が口に入ることによる感染が主な原因となっているので、一般的な衛生管理の徹底が基本となる。欧州では、経口生ワクチンがすでに応用され、国内でも承認された。

## 治療

治療には、チアムリン、タイロシン、クロルテトラサイクリンなどが有効とされている。

山形県庄内食肉衛生検査所（データ還元担当）

TEL 0234-45-1285 FAX 0234-42-3850